

した。一連のスギに関する研究調査の内の単なるメモであり、前表のそれぞれの値について34年度より実数に置換さるべき調査をし、さしすぎの品種と環境区との関係を基礎として幾つかの系統に分類することが

できれば、環境区毎の適品種（系統）を選定して、さしすぎ造林の指標にすることができるので、現地調査を行い、その動向の実態を把握したい。

18. スギ挿穂の浸水貯蔵が発根に及ぼす影響

大分県林業試験場 権 藤 久・原田 辰 丙
高 倉 俊・河野 俊 光

I. は し が き

日田地方では挿付前に穂木を流水に浸しておくのが普通であるが、これは主として採穂地と苗圃地が遠く、離れている場合が多いため行われるものであり、その浸水貯蔵時間が長くなると発根がわるくなると考えられる。そこで当地方で最も多く造林の用に供せられるヤブクグリ品種について浸水時間の長短が、はたしてどの程度発根に影響があるかを試みることにした。更に浸水貯蔵時間の長さの許容限度は挿付けの時期によつても相当異なるのではないかと考え、ここには3月1日より4月10日までの間、5回に分けて時期的にそれぞれ浸水時間の長短による発根の差を求めた。

II. 試 験 方 法

昭和31年3月1日、3月10日、3月20日、4月1日、4月10日の5回にわたり挿付けを実施した。毎回の挿付けは当日採取したもの100本と挿付前1昼夜、2昼夜、3昼夜、5昼夜、7昼夜、10昼夜、14昼夜前にそれぞれ100本ずつ採取して挿付日まで流水に浸したものの合計800本の穂木を用いることとした。穂木は日田市田島町地内のヤブクグリ14年生の同一林分より採取し、次のような要領で実施した。

- (1) 穂木は長さ400mに揃え基部に2-3年生の部分
を附し浸水前に穂拵えを実施した。
- (2) 挿付間隔は9×15cmとし、挿付深度は約15cm
とし、日覆も灌水も施さなかつた。
- (3) 挿付場所は日田市田島町の當場苗圃で海拔高110
m、南面した緩かな丘陵の中腹に設けられた水平な
畑地で、北及び西はくぬぎ林、東南面は水田に面し
ている。地表より15cmのところより採つた資料は
第1表のような性質を有する腐植質の少いやや礫に
富んだ砂壤土であるため、スギ挿木には好適の土地
とはいわれない。
- (4) 土壤環境による誤差をできるだけ少くするため8
×8のラテン方格法により挿付けた。

第1表 土 壤 の 性 質

含 水 率	雨後3日	30%
比 重		2.55
腐 植 質		6.26%
礫 度		4.36%
粗 砂		29.49%
細 砂		46.14%
粘 土		24.37%

第2表 気 象 表

月 別	気 温			湿度	平均 曇量	日照 時間	降水量
	平均	最高	最低				
2 月	2.4	8.7	97.4	77	6.2	123.9	53.2
3 月上旬	4.1	9.6	99.9	79	7.0	39.3	35.0
	9.0	16.9	3.6	82	6.9	36.4	66.6
	12.0	17.1	8.1	78	7.7	15.1	27.7
4 月上旬	9.3	15.6	3.8	81	6.9	34.3	26.0
	14.4	22.5	7.6	75	4.2	73.1	19.3
	14.4	21.3	8.5	79	7.2	50.5	42.3
5 月	16.6	22.5	11.9	81	8.5	107.7	228.8
6 月	22.3	27.6	18.2	82	8.1	108.7	444.4
7 月	26.4	31.3	22.5	83	6.3	197.2	229.8
8 月	24.8	30.1	21.0	85	7.4	152.8	335.9

- (5) 気象条件については右の第2表の通りである。
- (6) その他細部については通常当地方で行われる育苗
法に従つて実施した。

III. 試 験 成 績

以上の要領により実施したものを同年12月5日~12月8日の間に掘取り調査をした。

その結果を各挿付月日毎に浸水日数別の活着率のみについて見ると第3表の通りである。今70%以上のものを太字で示すと3月1日挿付のものでは3昼夜まで

浸水のもがよく、最適期と思われる3月10日挿付けのものでは10~14昼夜の浸水後なおかつ良好な成績を示しているが4月に入ると急に低下することを示す。

当地方では気象条件が普通の場合ヤブグリの挿木苗養成の適期は3月中旬である。而もこの期間では穂木は相当長期の浸水貯蔵に耐え、かつ悪い土壌条件にもかかわらず可成り良い結果が得られるが挿付けの時期が下るのは特によくはないようである。

IV. 結 び

第 3 表 活 着 率 成 績 表 (4,000 本 供 試)

浸水日数	挿付本数	挿 付 月 日					計	活 着 率
		3 月 1 日	3 月 10 日	3 月 20 日	4 月 1 日	4 月 10 日		
0	各 100	76	98	97	96	45	412	83
1	100	88	100	94	94	57	433	87
2	100	75	96	100	47	43	361	73
3	100	86	96	92	62	42	378	76
5	100	65	96	68	40	49	318	64
7	100	54	91	90	56	5	296	59
10	100	31	98	86	68	43	326	65
14	100	64	95	23	52	22	256	51
計		539	770	650	515	306	2,780	7.0
%		67	96	81	64	38	70	

19. スギ穂木の枝葉率と発根率の関係について

大分県林業試験場 権 藤 久・原田辰丙・河野俊光

I. は じ め に

スギ挿木苗を育成するに当り、枝葉率と発根率には大きな関係があることは明らかであり、或る程度の量の枝葉を剪定して挿付けするのが普通である。この剪定の最適な量は種々の因子により変動があるものと考えられるが、その重要な因子として品種があげられる。そこでここでは、先ず日田地方で最も多く造林に用いられているヤブグリ品種につきその最適の剪定量を見出さんとするものである。

II. 試 験 方 法

日田市大字日高字会所山内内の「ヤブグリ」14年生の同一林分より31年及び32年の二回にわたり、最もよい穂木を選んで採取し、之等を6段階の異つた度合に剪定して、一様に挿付けをする。そしてその枯損率と発根の良否を比較することとした。供試用穂木の調製その他の実施要領は次に示す通りである。

1. 穂 木

(イ) 穂木の長さは40cmとし、その基部には2~3年生部を附着せしめ、切口は楕円形とし穂拵え後

附近小川の中に浸す。

(ロ) 採穂月日 昭和31年4月2日及び昭和32年4月2日

(ハ) 浸水時間 72時間(3昼夜)

2. 側枝の着生度合

穂木の側枝着生度合(枝葉率)を表わすにはいろいろの方法が考えられるが、ここでは穂木の長さ40cmに対する総ての枝の長さの総延長の比率にて表わすこととし、次の6種類に分けて比較した。即ち

- a. 枝の延長が2m(穂木の長さの5倍)
- b. 同 上 4m(同 上 10倍)
- c. 同 上 6m(同 上 15倍)
- d. 同 上 8m(同 上 20倍)
- e. 同 上 10m(同 上 25倍)
- f. 同 上 12m(同 上 30倍)

この状態は写真により示す通りである。

3. 挿 付 本 数

各組20本とし、計120本を31年度と、32年度の2回くり返した。

4. 挿付けの間隔と深さ